

「鉄道車両製造事業の再編」に関する 申6号 解明申し入れ交渉 3回目①

12.J-TREC新津事業所(仮称)および横浜事業所の車両製造に関するそれぞれの役割を明らかにすること。

13.J-TREC新津事業所(仮称)および横浜事業所のそれぞれの車両生産能力を明らかにすること。また、当面する車両新造計画を事業所毎に明らかにすること。

《J-TREC・E-TEC 2社の役割と生産能力について》

- ・新津は、ステンレス製通勤電車をつくること。横浜は、アルミ製車両と新幹線をつくるのが役割だ。生産能力は、横浜が350両、新津は250両だ。

《J-TRECの標準数について》

- ・J-TRECに標準数という考え方はない。どの部署に何人必要かという事は、経験を踏まえて決定している。標準数という考え方は当社ぐらいだと思うが、標準数はあくまでも目安。

《受注が生産の能力を上回った場合について》

- ・横浜では、臨時雇用や他メーカーからの支援。新津では、E-TECで波動対応する考えだ。

《今後の車両新造計画》

- ・計画は関係箇所には知らせている。計画や引き合いがあるのは事実だが、受注が確定していないものを明確には言えない。

14.J-TREC新津事業所(仮称)内の組織体制を明らかにすること。また、事業所毎の設計および企画部門の体制について明らかにすること。

15.E-TECへ新たに委託拡大する業務内容および委託規模を部署毎に明らかにすること。

《J-TRECの組織体制》

- ・体制は検討段階。考え方は、①事業全体の把握しやすさ、②横浜・新津・和歌山事業所間の意思疎通のしやすさ、③横浜と新津間の交流のしやすさを基本に検討している。また、組織体制にJ-TREC新津事業所(仮称)を入れる場合の位置付けも検討中。

《企画部門と営業体制》

- ・企画部門は以降の段階では大きくは変わらない。営業の体制は現行と変わらない。

《E-TECへ新たに委託拡大する業務》

- ・新たな委託業務は、部品・部材の製造、現行の委託業務でJRとE-TECが小規模に区分されている業務になる。

【部品・部材の製造】

部品製造センター、加工製造センター「切断曲加工」「側構体部品」「妻構体部品」、台車製造センター「機械加工」

【小規模に区分されている業務】

構体製造センター「側組立」「屋根組立」、艀装製造センター「配管」「内張板」、台車製造センター「台車組立」

- ・委託規模は70名。現在従事している全員が、委託後に必ず従事するというわけではない。